



ヴィッキーの
にっぽん紀行
 Vol.19

Victoria・Potter
ヴィクトリア・ポッター

・1980年生まれ。英国ノーリッチ出身。
 ・2008年8月から町英語指導助手。

今月、私と3人の友だちは、命をかけ、「ふぐ」に挑戦しました。私たちはいつも熱心に新しいことに挑戦してみたり、日本のいろいろなことを経験したりしています。「ふぐ」を食べることもその中の一つなのです。毎年ふぐを食べて何名かが亡くなっていることは知っていますが、たいして死に至るのはいふぐを調理したことがない人がさばくからであるからだと思うので、心配はしていませんでした。

渋谷でふぐ料理屋をみつけ、お刺身や鍋の料理などを食べました。ふぐ刺しはポン酢で食べると、なんともいえないおいしさでした。お刺身の後、鍋用のふぐが運ばれてきました。見た目は生の鶏肉そっくりで、まだぴくぴく動きそうなくらい新鮮でした。今回の経験は、とって

もわくわくするもので、また、ラッキーなことに誰も具合が悪くなることはありませんでした。ふぐは、身の安全が保障できないので、天皇のみ食べることを禁じられた食べ物である、と本で読みました。

東京に行っていた同じ週末、三鷹のスタジオブリに行ってきました。『千と千尋の神隠し』以来、スタジオブリはイギリス人にとっても人気のある観光

地になり、トトロやキキ、ジジそしてポニョのようなキャラクターもよく知られるようになりました。そこは映画や原画の絵や写真でいっぱいスタジオであった。小さい子向けの部屋もあって、トトロにでてる大きいネコバスで遊ぶことができそうです。子どもたちがふわふわした柔らかそうなネコバスで遊んでいるのをみながら、大人はうらやましそうにその部屋を横切っていました。もし誰も周りにいなかったら、ネコバスの上で飛び跳ねたり、中をよじ登ったりしたい！とどの大人も思っていると思いました。

悲しいことですが、私は、ゆっくりと身の回りのものの片付けや、部屋の整理を始めました。私の只見での仕事は8月で終わりを迎えます。離れることはとても寂しいですが、新しいALTが来る前にすぐきれいな状態にしよう、と決心しました。

今週末、サトコさんと南会津にいる2人のALT、下郷のMattと田島のCraigそして、国見のALTと浅草岳に登る予定です。体調が悪くなったりして、みんなから遅れないように！と願っています。登山中に只見町内の人に会えるんじゃないかなあと思っています。

(訳・只見中・福地)

広報ただみ診療所

朝日診療所 所長 佐竹 秀一

「老後の生活(生き方)について」

こつこつ

ようやく夏らしくなってきました。暑さが続くと脱水や熱中症になりやすいので注意してください。さて、僕が只見に来てから4年目に入りました。その間多くの患者さんを診させてもらいました。なかでも、医療・福祉の狭間で困っている多くの患者さん・家族をみて、いろいろ考えさせられました。

典型例ですが、高齢の方が病気で入院します。治療の甲斐があつて元気になります。「よかつたですね、退院ですよ」なのですが、ここにおいて欲しいというのです。理由として、本人は「一人暮らしに自信がない」、家族側は「遠方だから一緒に住めない」「この状態ではうちではみれない」などです。

診療所にはソーシャルワーカーが居ませんので、医師・看護師・ケアマネージャーさんと相談しつつ、今後の方向性を決めていきます。

只見町の高齢化率は現在、41%であり、年1%ずつ増えています。10年後には50%を超えることが予想されます。また、65歳以上の独居の数は399世帯です。もちろん、10年後はさらに数が増えることが容易に考えられます。

誰もが元気に暮らせることを望みますし、まさか自分が寝たきりになるとは思いません。しかし、脳卒中や認知症の進行は、ある時襲ってきます。

まだ元気なうちに次の2つの項目について考えてみましょう。
 ①自分、自分の親(祖父母)が突然寝たきりになった際、どうしますか？

施設に入るのもひとつの選択肢です。しかしながら只見ホーム・こぶし苑(こぶし苑は一生住める施設ではありません) 共に入所数10人待ちの状態であり、絶対数が足りません。診療所も町唯一の入院施設であり、急病人のために町のみならず、共有できる状態にしなければならず、いつでも入院というわけにはいきません(本当はお願いしたいのです)。

このような現状を考えると、福祉サービス(ヘルパー・ショートステイ・デイケアなど)を利用し介護力を上げ、家で見ていくことも必要になってきます。

②衰・寝たきりで、口からご飯が食べられなくなったとき、管から栄養を入れることを望みますか？

管を入れ、家で新聞を読みながら家族に囲まれて余生をすごされている方もいる一方、「家ではみれない」と言われ、家族の面会もなく、療養病床を転々としている寝たきりの方もたくさんいます。本人の意思はどうだったのでしょうか？家に帰れないその人(自分)は、幸せでしょうか？

只見は正月より、雪のないお盆に子供さんが帰省してくることが多いようです。これをいい機会に、①、②について一度家族で話し合ってみてはいかがでしょうか？